

# ライフステージごとの教員育成指標【養護教諭】

## 群馬県の教員としての基礎的素養

教育的愛情・情熱

使命感・責任感

規範意識・人権感覚

コミュニケーション能力

学び続ける姿勢

項目	ステージ	教職課程修了時	キャリア段階Ⅰ	キャリア段階Ⅱ	キャリア段階Ⅲ
			基礎形成期	資質向上・充実期	資質発展・円熟期
養護教諭専門領域	保健管理	○学校保健安全法を理解し、児童生徒の実態把握の方法や保健管理の知識と基礎的な技能を身に付けている。	○児童生徒の心身の実態を把握した保健管理及び感染症の予防と対応、学校環境衛生活動を適切に行う。	○児童生徒の個及び集団の実態に応じた保健管理を組織的に行う。 ○保健管理に関する校内研修を企画し、運営する。	○健康に関する危機管理について組織的な対応が図れるよう具体策を提案し、推進する。 ○学校内や地域で指導的役割を果たす。
	保健教育	○教育課程における保健教育の位置付けや養護教諭の専門性を生かした指導について理解している。	○学級担任や教科担当等と連携し、養護教諭の専門性を生かし、学習指導要領を踏まえた児童生徒への指導を行う。	○児童生徒の心身の健康状況を踏まえ、指導計画を工夫・改善し、保健教育を効果的に推進する。	○健康教育に関わる全校的な課題に対し、学校の方針に応じた取組の提案や実践を行う。 ○学校内や地域で指導的役割を果たす。
	健康相談	○健康相談の目的と基本的な教育相談のプロセスを理解している。	○児童生徒の心身の発達の段階や現代的な健康課題を踏まえた健康相談を行う。	○保護者、専門家・専門機関等と連携した健康相談体制の充実を図る。	○教職員が行う健康相談において、具体的な指示や助言を与える。
	保健室経営	○養護教諭の職務と役割、学校保健活動のセンター的機能を果たす保健室の役割を理解している。	○学校教育目標の具現化を目指し、児童生徒の健康課題の解決に向けた保健室経営を行う。	○学校教育目標の具現化を目指し、関係機関や校内組織を活かした保健室経営を行う。	○保健室経営における改善や精選の視点をもって学校経営に参画する。
	保健組織活動	○保健組織活動の意義を理解し、周囲と連携・協力して取り組むことの重要性を理解している。	○教職員、児童生徒が主体的に取り組める組織的な活動を提案し、健康づくりを行う。	○家庭、地域・関係機関と連携した活動を計画的・組織的に行う。	○近隣の学校と連携した健康づくりが推進できるよう指導的役割を果たす。
生徒指導等	児童生徒理解	○児童生徒と積極的に関わり、一人一人のよさを見つけることができる。	○受容的・共感的な態度で児童生徒に接し、一人一人の状況を理解する。	○学年や学校の生徒指導上の課題を踏まえ、一人一人の悩みや不安等を理解する。	○児童生徒を取り巻く環境の変化等を踏まえ、学校全体の児童生徒の状況や課題を多面的に把握する。
	個への指導・支援	○児童生徒の実態や発達の多様性を認めるとともに、生徒指導の意義を理解している。	○児童生徒の個別の課題を理解し、問題行動や学習・生活上の困難の早期発見・即時対応を行う。	○児童生徒が抱える課題や困難を分析し、学年組織を生かして自己指導能力を高める取組を行う。	○部会等を機能させ、担当者間の調整を図りながら、組織的な指導・支援を推進する。
学校経営	組織的な取組	○周囲と連携・協力して物事に取り組む姿勢を身に付けている。	○組織の一員としての自覚をもち、連携・協力しながら自分の役割を果たす。	○関係する分掌の担当者等と組織的な連携を図り、具体的な支援や提案を行う。	○工夫改善や精選の視点をもって様々な組織等と調整を図りながら、解決策を企画し提案する。
	保護者や地域等との連携・協働	○保護者や地域等と連携した教育活動の意義を理解している。 ○郷土の歴史や文化、生活等について理解している。	○保護者や地域等との連携の重要性を認識し、適宜、家庭との情報の共有を図る。	○保護者や地域等との連携を深め、必要に応じて関係機関と協働して対応する。	○学校の課題を把握し、保護者や地域、関係機関等との協働体制を構築する。
	危機管理	○安全な教育環境の整備について、基本的な知識を身に付けている。	○危機管理マニュアル等に基づき、事案発生時の対応方法について理解する。	○危機を予測して未然防止を図るとともに、事案発生時には連絡・調整役として迅速に行動する。	○校内の危機管理体制を点検し、事故等の未然防止に向けて周囲に具体的な指示や助言を与える。

※上位のステージでは、下位のステージにおける指標の内容も求められます。